

10月26日の反原子力デーに 大いに話し合い、運動の輪を広げよう！

原発を基幹電源とする日本のエネルギー基本計画

10年後も原発推進でいいのでしょうか？

10・26反原子力デー 反原発討論集会

「これでいいのか エネルギー基本計画、 脱原発・水素社会を展望する」



日時： 10月26日 (日) 午後1時～

場所： ヒューマインド

(総合福祉センター JR環状線「芦原橋」駅から徒歩7分)

10月26日は、反原子力デーです。17年前にチェルノブイリ原発重大事故が起こり、原発重大事故は起こるといふ事実の前に、原発新增設中止の動き、原発運転の安全に対する厳しい目など、脱原発の流れが大きな流れとなってきています。

しかし、脱原発を決めた国々では、原発保有会社の根強い抵抗と新たなエネルギー確保の難しさから原発閉鎖の時期を遅らせたりしながらも、脱原発への道を着実に進んでいます。

アメリカでは、新たな原発立地は途絶えています。原電の安全規制を大幅に緩和

し、既設の原発の寿命延長をおこなっています。運転中に保守・点検をしても良いとか、連続運転期間を18～24ヶ月へ延長するとか、原発の停止期間を縮めるとか、なんとか原発のコストを安くあげる危険な運転をしています。電力自由化の中でのアメリカの原発運転の実情です。日本が、このアメリカの動きに追随していることが、よくわかります。

日本でも、電力自由化の中で、運転中の原発に対して、運転管理の経営合理化、40～60年への原発寿命延長、安全規制の緩和によって、なんとか原発にかかる経費を安くし

ようと躍起になっています。

4年前にJCO事故が起きました。これも経営合理化の中で、なんとか安上がりしようとする力が働き、危険な作業であるウラン加工工程を考えられないずさんな作業で、臨界事故が引き起こされたのです。まさに、この再現が原発の運転で繰り広げられようとしているのです。

国の全面的な支援、責任分担がなければ 原発の推進は成り立たない

高速増殖炉開発路線は、破綻しました。プルトニウム政策は、「プルサーマルで」といっていますが、六ヶ所再処理工場によるプルサーマルは高くつきすぎ、電力会社は大きな負債を抱えることとなります。

再処理をしないとすると、原発から出る使用済み核燃料からプルトニウムを取り出す路線は、破綻してしまいます。核燃料サイクル政策を見直すとなると、今までいっていた原発推進の純国産エネルギー資源を持つというウソがばれてしまいます。

今ささやかれているのは、原発から出る使用済み核燃料を将来の資源であるときめつけて、国が責任持って保管する、国家備蓄構想や国際中間貯蔵構想などです。

国のエネルギー基本計画を見ると、今まさに、解決しなければならない原発をめぐる課題をさらに先送りして、将来の子孫に負担を強いるという動きに出ています。

いろんな矛盾が出ていることをしっかりと知り、反原発運動を前進させるために話しあうことが必要になってきているように思います。

これらの問題について、反原子力デーの

10月26日に大阪で、10・26反原発デー反原発討論集会「これでいいのかエネルギー基本計画、脱原発・水素社会を展望する」を持ちたいと考えています。ぜひご参

加下さい。

また、10月24日(金)の午後6時から、関電交渉を行います。ともに、粘り強く、徹底的に闘いましょう。

福井県のもんじゅの闘いに支援を

9月26日、福井県のもんじゅ安全性調査検討専門委員会は、「異常や事故は起こるが周辺に深刻な影響は出ない」というとんでもない報告書を発表しました。もんじゅは安全だと結論づけたのです。

また、敦賀市長は、9月24日には、もんじゅ改造工事については、「判断するのは年内でしょう」と発言しています。

この間、国は、もんじゅ運転再開のために、福井県下で説明会やシンポジウムなどを連続して開催し、敦賀市長にもんじゅ運転再開への協力を依頼しています。

もんじゅは違法であるとの高裁判決が出ているにもかかわらず、国は、最高裁で争い、もんじゅの改造工事は進めるとしています。

もんじゅ再開反対署名の声は22万を超え、司法でももんじゅは違法と結論づけています。

福井県の人々は、これで安心して過ごせると思っていたのに、また将来の子どもたちにツケを回す動きが出てきました。

私たちは、もんじゅ反対の声をさらに大きくする闘いが、いまこそ必要とときだと考えます。

敦賀を始め、その周辺地域の新聞折り込みをおこないます。また、議員さん達に議会でもんじゅ反対を求める特大八ガキ行動を行いたいと思います。

そのため1口500円のカンパを呼びかけます。何口でも結構です。多く集まればそれだけ多くの人々に折り込みを入れることが出来、八ガキもお願い出来ます。

35万円が目標です。

多くのカンパをお願いします。

~~~~~ 今後の予定 ~~~~~

10月24日(金)午後6時より

## 反原子力デー 関電交渉

場所 関西電力本社前 午後6時集合 (地下鉄「肥後橋」駅下車徒歩5分)

連絡先 若狭ネット (0729-39-5660)

10月26日(日)午後1時より

## 10・26反原子力デー 反原発討論集会

場所 ヒューマインド(総合福祉センター JR環状線「芦原橋」駅から徒歩7分)

連絡先 若狭ネット (0729-39-5660)

11月16日(日) 午後2時~5時

### 第1回

## 環境・エネルギー・平和教育のひろば

場所: 苅田土地改良記念会館

(地下鉄御堂筋線「我孫子」駅下車 徒歩5分)

- ・ 最近の環境・エネルギー・平和教育をめぐる動き
- ・ 学校現場でいかに環境・エネルギー・平和教育に取り組むか
- ・ 現場からの報告と意見交換

連絡先: 若狭ネット (0729-39-5660)

### 編集後記

・ 9月26日朝、テレビの画面には石油タンクが黒煙を上げ燃えていた。眠い目をこすり、地震の恐怖を感じる。津波警報や余震の続報。ぱっくりと口を開けた大きな地割れ。地震の強さを思い知らされ、苫小牧のイーター誘致反対運動をたたかってきた仲間の安否が気になった。

いよいよ10月より原発維持基準が導入される。ひび割れがあっても運転を認める国の姿勢で、原発の耐震性はますます弱まる。こんな不安な社会をつくっている日本。

10月11日のスベトラーナさんの講演会。会場いっぱいの人々が集まる。お話の中で印象に残ったことは、「チェルノブイリ人になってしまったベラルーシの人々。放射能にまみれ、経済的に苦しい生活の中で生き延びなければならない。」

日本でも原発のために、「これからもずっと放射能の恐怖から逃れることが出来ない」という課題が残されたままになっている。一日もはやく脱原発の道を歩み出すよう、がんばりましょう。

きよ子